

事業の背景・目的

キリシマイワヘゴは環境省レッドデータブック2014で我が国では徳島県のみ生育が確認されているとあり、しかも自生地には3個体しかないため、極めて絶滅の危機が高い状況にある。本事業は、四国に生育する国内希少種キリシマイワヘゴを自生地での生育環境の改善と孢子からの人工増殖方法の確立及び自生地への植え戻し等の方法を検討し、種の保存を図ることを目的とする。今年度は徳島県および再発見された宮崎県の自生地で生育環境測定、自動撮影カメラの設置を行った。さらに、孢子を使用した人工増殖方法の検討も行った。



事業の内容

事業① 現地調査

- ・ **生育環境調査**：自生地の気温・湿度・地中水分量・光量などを測定した。
- ・ **ニホンジカ生息調査**：自動撮影カメラを設置し、自生地へ来る動物を確認した。
- ・ **フェノロジー調査**：新葉の展開、孢子囊の形成・完熟期、冬季の株の状態を観察した。

事業② 他の自生地調査

- ・ 宮崎県で再発見された自生地の環境調査・植生調査等を行った。



事業③ 孢子採取

- ・ 孢子採取の適期確認
- ・ 汚染の少ない孢子の採取方法の検討
- ・ 孢子の無菌播種条件の検討



得られた成果

事業① 現地調査

- ・ 8月から開始した環境測定の結果から、平均湿度80%程度の高い湿度の環境であることがわかった。
- ・ 自生地にはサル（子連れ）、ニホンジカ（メス）が来ていた。
- ・ 孢子の完熟期は6月中であった。8月頃夏葉にもわずかながら孢子囊が形成されるが、展葉して1か月未満で孢子を散布した。

事業② 他の自生地調査

- ・ 宮崎県の生育地と徳島県の生育地には共通点があり、どちらも大径木が混ざる森林の明るい林縁で、土壌が適度に湿っている場所に生育していた。生育場所は礫の上に腐食が堆積した所で、水はけはよいが浸出水で常に適湿な状態である。

事業③ 孢子採取・事業④ 人工増殖方法の検討事業

- ・ 事業開始が7月中旬以降のため適期を逸した。来年度に再挑戦する。
- 引き続き地元の方々と協働しながら、地元主体で自生地を維持管理していける体制を構築していく。